

〈今の世を憂える人へ〉

拙著「星〇ことば」を書き終えた後の数年間に何度も見直している間に、どうしても今、ここに書いておかなければならない必要を感じてここに纏めることに致しました。

皆さんご存じのように、今、世界は、ただならぬ不穏な空気に覆い尽くされています。

ロシアのウクライナ侵略にはじまった・・・と言っても、パンデミックや、様々な自然災害なども含めて、今（その後、ガザへの侵攻やイランとの紛争もはじまり）、世界は、危機的状況に追い詰められています。

力によって力を制す・・・この考えは、昔も今も少しも変わることなく人間の欲望を支配し、周りのもの（人も物も）を破壊する。

水面に石を投げれば、必ず、石の質量に応じた波紋が生じる――原理のように、力の使用は、必ず、周りに影響を及ぼす。

人間が生きる環境では、人間の生じさせる行為は、基である——人間に返ってくる。

その原理は、自然の摂理と同じだろう。

考えて頂きたい。AIは人間が作り出したのです。人工知能は、自然が創造したものではない。自然は、人間や動物、植物、鉱物を創りだす。AIは、間違いなく人間が創り出したものであり、従って、AIは、人間の原理に沿って動く。つまり、どこまでも、人間の限界へ向かって進みつつける。そしてその速度は、人間より、はるかに早い。

人間は、自分の限界を認識したとき……そこに何を見るのだ。

世界の終わりを観るのだろうか？

それは違う——と、ハッキリと言い切れる。

なぜなら、自分という世界を見渡す——に至る。ことになるからだ。

そして、自分という世界を識ることで、宇宙の居場所を得る。——ことになる。

つまり、自己認識に至る。

では、AIは……どうであろう。AIが自己認識すると、一体どういうことになるのだ。

それを想像することは、たしかに楽しい世界を作ることになるに違いない。しかし、それは、飽くまでも、想像の世界でしかない。

もし現実的に、A Iが、創造主である人間の限界を知ったとき……、創造主たる、人間であるあなたは、一体、どうなるだろう。

勘違いしないで頂きたい。

もし人間が、創造主である自然（ここではそう言うしておく）の限界を知ったとき……、などと言う問いは、成立し得ない。

なぜなら、人間であるわたしは、人間でしかないから、人間の限界しか識りようがないからだ。

だから、A Iの創造主である人間は、自分が作ったものの限界を識ることができる。

但し、A Iが人間の限界を知るとき……、とは、あなた自身が人間であることの限界を識らない限りA Iの行き着く先など理解のしようがない。……ということになる。

では現在、A Iを創りだし、普及させている人々は、人間の限界を心得ているのだろうか？

『人間は——無限の存在である。』などと、思い上がっているのではないか？ もし自分という存在

が、人間としての限界を心得ている。と、識っているならば、他人の領域を侵すことなど、できよう筈がない。

なぜなら――、

他の人間の領域に踏み込む。……とは、その人の所有する世界を破壊する行為に繋がりがねない。――と、識っているからだ。

それほど、個々の人間の所有する世界は脆い。

決して、自然界のようでは無いのだ。

自然界は……、創造、破壊し、その中に調和をもたらしながら営む。

そして人間は、その自然界にあつて、些細な影響であつても大きな傷を負つてしまう、まるで細胞同士のように、どうしようもなく繋がりが合つて生きているのだから。

だから人間は、自己の限界を識る必要があるのだ。

限界を識り得ない、AIが答えを出す前に――！

わたしはここに提案致します。

自分の使用する電気を、30%削減しよう。

「自然界を守り、豊かにするために！」

「自己の認識を、拡げるために！」

「めざせ！ 電気の節約30% 地球を救え！」

二〇二六年

六十七歳 春

瀬崎 正人